



晴海ふ頭公園「TOKYO」モニュメント

第1部 東京の最新情報

この別冊では、テキストで扱うことのできなかった「東京の最新情報」をご紹介します。

第1部では、東京を取り巻く観光の状況や最新の東京の魅力の一部をご紹介します。

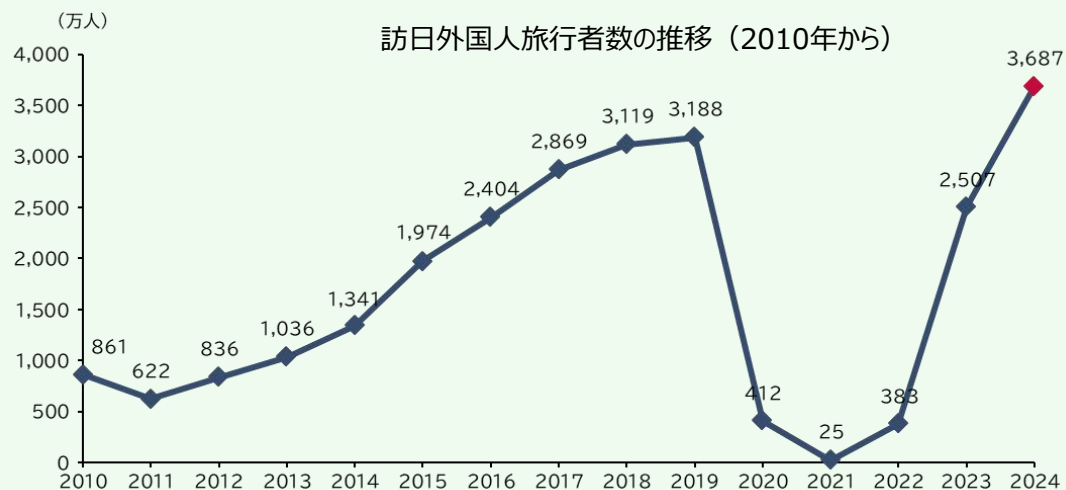
株式会社JTB総合研究所

地域交流創造事業部ユニバーサルツーリズム推進担当

上席主任研究員 勝野 裕子

日本政府観光局（JNTO）の調査によると、訪日外国人旅行者数はコロナ禍を経て回復し、2024年には3,600万人を突破し、過去最高であった2019年の人数を約500万人、上回りました。

東京都を訪れる外国人旅行者数も好調で、2025年の第1四半期（1～3月）は約557万人（前年同期比34.3%増）、第2四半期（4～6月）は約683万人（前年同期比31.0%増）に達する見込みで大幅に増加しています。



出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

外国人旅行者の増加に伴い、東京都内のあちこちで海外からの観光客の姿は日常の光景となりました。しかし、外国人が地図を広げたり、駅で迷ったりする場面を目にすることもあります。そのような人々をサポートするのが「東京都観光ボランティア」です。

東京都観光ボランティア※は、東京の観光案内を充実させる目的で東京都によって運営されており、2025年4月時点で約3,000人のボランティアが登録し、活動しています。

ボランティアには語学力だけでなく、おもてなしの心や観光案内のスキル、日本の文化・歴史に関する知識が求められるため、登録時の研修に加え、年間を通じて複数回の研修が実施されています。

また、東京の魅力紹介に必要な知識の理解度を測るため、多くのボランティアは東京シティガイド検定を受検しています。（次頁へ続く）



東京都観光ボランティアの活動の様子

第1部 東京の最新情報

さらに、誰もが快適に旅行できる環境を整える「アクセシブル・ツーリズム」に関する研修も行われています。アクセシブル・ツーリズムとは、障害者や高齢者など、移動やコミュニケーションに困難を抱える人々のニーズに対応し、誰もが快適に旅を楽しめることを目指す取り組みです。この研修では、車いすの移動方法、視覚障害者の誘導方法、応急救護措置など、実践的なトレーニングも含まれています。

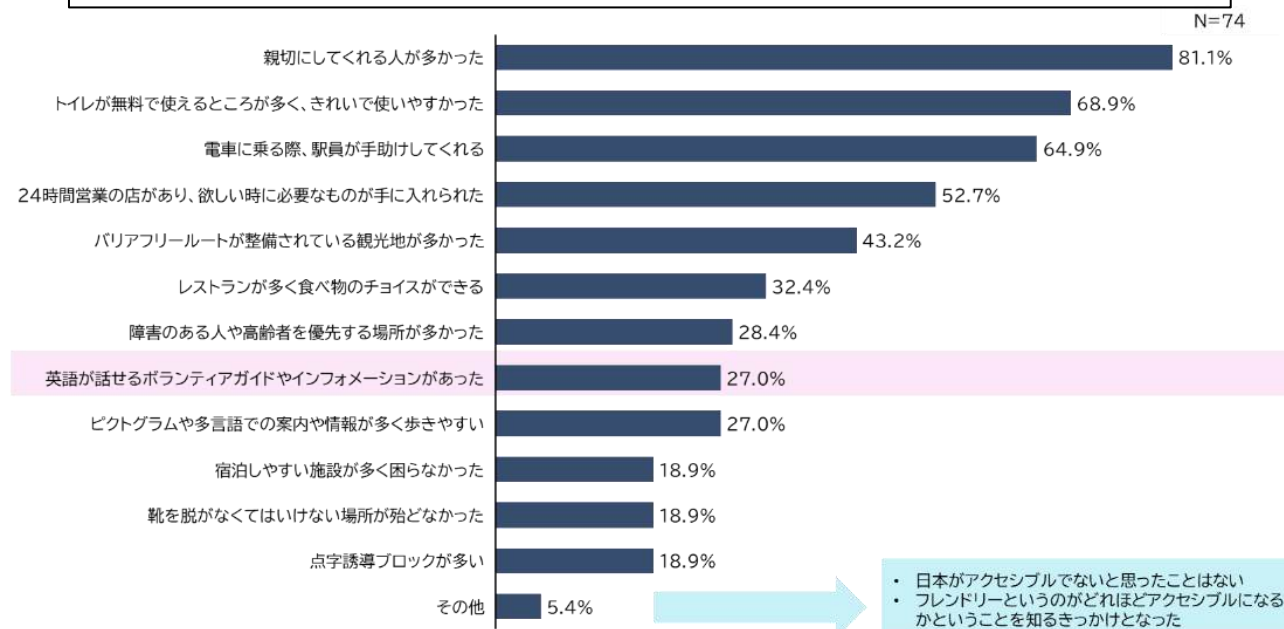
東京都観光ボランティアの活動は、海外でも類を見ない先進的な取り組みの一つです。2024年にAccessible JapanとJTB総合研究所が実施した「海外在住障害者の日本アクセシブル・ツーリズム認識調査」でも、訪日経験のある外国人旅行者で障害のある方がボランティアガイドの存在を高く評価しています。

2025年には、東京で世界陸上やデフリンピック※が開催され、国内外から多様なお客様を迎える機会となります。

(※「デフ (Deaf)」は英語で「耳が聞こえない」という意味)

こうした国際的なイベントにおいても、東京都観光ボランティアの活躍が多いに期待されています。

Q.日本に来たことがある方にお伺いします。日本のアクセシブル・ツーリズムに関する事で良かったことや驚いたことを教えてください。
(複数回答)



出所：Accessible Japan・株式会社JTB総合研究所 共同調査
「海外在住障害者の日本アクセシブル・ツーリズム認識調査」(2024.11)
<https://www.tourism.jp/tourism-database/survey/2024/11/barrier-free-tourism/>

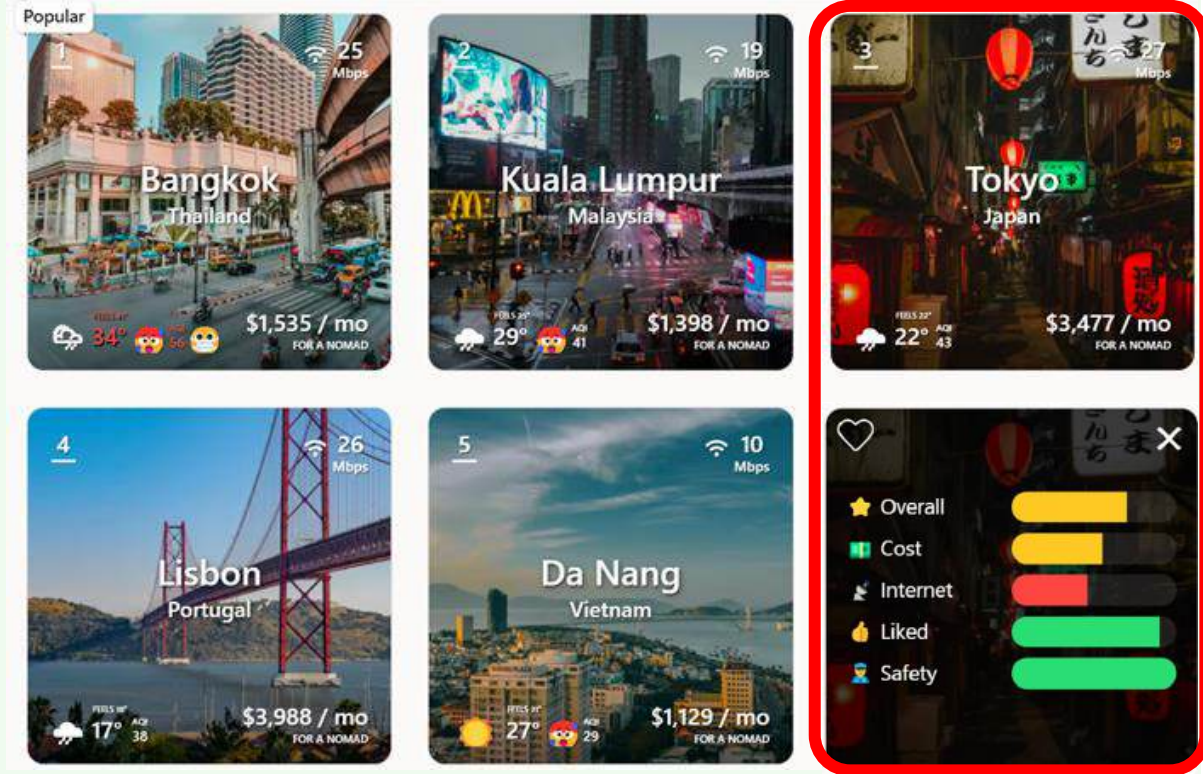
第1部 東京の最新情報

また最近は、「デジタルノマド」と呼ばれる国際的なリモートワーカーも増加しています。彼らが参考にする「Nomad List」というプラットフォームでは、生活費やインターネット速度、治安など様々な指標で都市を評価し、人気都市のランキングが刻々と変動します。東京は、2023年12月は23位でしたが、2024年1月には11位、2025年4月には3位にランクインしました（JTB総合研究所調べ）。

このようなデータからも、東京が外国人にとって魅力的な都市であることがわかります。また、日本政府はデジタルノマド向けのビザ制度を2024年4月に導入したことから、今後ますます国際的なリモートワーカーが東京を訪れることでしょう。



Nomad Listランキング



出典：Nomad List 2025年4月23日
<https://nomads.com/>

※「東京都観光ボランティア」の活動には、外国人旅行者向け観光ガイドサービス、都庁案内・展望室ガイドサービス、街なか観光案内などがあり、各活動を通じて訪都外国人旅行者に「おもてなしの心」を伝えています。

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/tourism/volunteer/volunteer3>

第2部 地域の魅力発信

第2部では、東京都の各地域に暮らす人たちから見た「いまのまちの魅力」を紹介します。

東京都ではこれまで、シンボルマークの制定をはじめ、都民の鳥、都の木などを決定してきました。



左のシンボルマークは、東京都の頭文字「T」を中央に秘め、三つの同じ円弧で構成されています。



都民の鳥「ユリカモメ」は羽は白く、くちばしとあしが朱色です。



都の木「イチョウ」は公害や火にも強いいため、街路樹としても使われています。

出典： <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/tokyoto/profile/gaiyo/monsho.html>

現在は、東京の魅力を国内外にPRするため、「Tokyo Tokyo」を活用した取組を進めています。

「Tokyo Tokyo」は、東京の魅力を国内外にPRするアイコンです。旅行地としての東京を強く印象づける「東京ブランド」の確立に向けた東京都の取組の中で誕生しました。

筆文字のTokyoとゴシック体のTokyoは、江戸から続く伝統と最先端の文化が共存する東京の特色を表現しています。そうした部分を Old meets New でも重ねて強調しています。



出典： <https://tokyotokyo.jp/ja/about/>

次ページ以降では、この「東京ブランド」の考え方を参考に、各地域に暮らす人たちから見た「いまのまちの魅力」を紹介します。

地域の魅力を是非、再発見してみてください。

第2部 地域の魅力発信

「私のまちの魅力について」

一般社団法人 大田観光協会

羽田空港があり、銭湯、商店街、工場の数も多く、多摩川と京浜運河の水辺に囲まれた23区で一番面積が広い大田区。その大田区の魅力を経験できる様々なカタチでご案内しています。

パンフレットやHP・SNSでの情報発信のほか、「おおたオープンファクトリー」をはじめ、地域の方々と連携したイベントの開催やツアー造成などを実施しています。



昔懐かしい宮造りの銭湯



宮造りの銭湯 明神湯（明神湯提供）

大田区は都内で最多の銭湯数を誇ります。特に湯の色が真っ黒な「黒湯（くろゆ）」は有名で、重曹の成分が含まれる美肌の湯と言われています。

銭湯は江戸時代から庶民が体を清潔に保つためだけでなく、交流の場としても栄えて親しまれてきました。大田区の銭湯は昔懐かしい宮造りの銭湯から、湯船に浸かりながら泳いでいる魚が見える銭湯など、多種多様で、地域住民をはじめ、多くの来訪者に愛されています。

新たな取組を進める銭湯



女塚温泉 改正湯（改正浴場有限会社提供）

ユニークな取組を進める銭湯もあります。

女塚温泉改正湯（おんなづかおんせんかいせいゆ）では、訪日外国人観光客を対象に、営業前の浴室でプロジェクションマッピングの体験プログラムを開催しました。浴室には東京工科大学の学生達が自由な発想で解釈した、黒湯や日本の四季などの日本文化が投影され、参加者は足湯をしながら天井や壁面を眺めていました。観光庁による観光再始動事業集客の一環で、(株)日本旅行のオプションツアーとして提供、産学官連携により実現しました。

第2部 地域の魅力発信

「私のまちの魅力について」

一般社団法人立川観光コンベンション協会



私たち立川観光コンベンション協会は、「地域の回遊性の向上」や「賑わいの創出」を目的として、立川市内外のステークホルダーのみなさまと立川らしい地域価値の創造、また東京山間地域と広域で楽しめる多摩エリアの構築など様々な事業を行っています。

市内の観光スポットや活気ある飲食店、また季節に応じたイベントなどを相互に連携し相乗効果をもたらす施策や、インバウンドに向けたMICEの取り組みなど、地域経済の活性化と持続的な発展に貢献しています。

歴史ある公園での多様な楽しみ方



セグウェイツアーの様子（国営昭和記念公園提供）

四季折々の花が楽しめることで人気の昭和記念公園では、広大な敷地を軽快に巡る「セグウェイガイドツアー」が開催されています。最初に丁寧なレクチャーがあるので初めての方でも安心して参加できる人気のアクティビティとなっています。

そのほかにも、ディスクゴルフやペタンクなどのニュースポーツ体験をはじめ、自然素材を活用したワークショップや環境学習体験など、様々なイベントが定期的に行われ、多様な楽しみ方が新たな人の流れを呼び込んでいます。

近代アニメとのコラボによる観光客誘致



コラボイベントの様子

©KK/K/P-IⅢ
©KK/MF/K/P-R T

立川市が登場するTVアニメ・マンガ作品とのコラボ事業を進めています。一般社団法人アニメツーリズム協会が国内外のアニメファンを対象とした投票結果をもとに選定する「訪れてみたいアニメ聖地88 2025年版」では、「とある魔術の禁書目録」「とある科学の超電磁砲」の2作品が認定されました。

2024年11月には、昭和記念公園内で「とある自治体の地域振興2024」イベントを開催し、コラボグッズを販売するなど、アニメを活用した観光客誘致にも積極的です。

第2部 地域の魅力発信

「私のまちの魅力について」

一般社団法人 式根島観光協会

式根島観光協会は、昭和40年に設立（2025年2月60周年）式根島の観光PR全般を担っております。四季折々楽しめる式根島は、夏は海水浴場で多くのお客様で賑わい、冬は湯治場として温泉を楽しみにしている方たちが多くお越しになります。そんな式根島の玄関口にある式根島観光協会では、オリジナルグッズも販売しており、ここでしか買えないグッズを沢山ご用意しております。是非お立ち寄りください。

泊海水浴場（式根島観光協会提供）



与謝野晶子も訪れた海中温泉



松が下雅湯（式根島観光協会提供）

式根島には地鉤（じなた）温泉、足付（あしつき）温泉、松が下雅湯（まつがしたみやびゆ）、御釜湾（みかまわん）海中温泉の4つの「海中温泉」があり、与謝野晶子も湯治に訪れたと言われています。

4つの海中温泉の中でも、御釜湾海中温泉は秘湯中の秘湯と言われ、陸からはアクセスできず、船で近くまで行き、そこから泳いでいく温泉です（行き方は、観光協会へお問合せください）。海底から二酸化炭素が湧き出している場所でもあり、学術的にも注目されているスポットです。

進化する海中温泉の楽しみ方



フェイシャルマスク（式根島観光協会提供）

式根島でのお土産が「進化」しています。2024年10月には足付温泉の温泉水を配合したフェイシャルマスクが登場し、新しい温泉の楽しみ方を提供しています。

また、夏以外の閑散期にも若年層の来島者を増やすため、東洋大学国際観光学部・武ゼミの学生と課題解決に向けたワークショップを実施し、PR動画を作成しました（2025年2月）。学生目線での島の楽しみ方をSNSを通じてPRしています。

[式根島観光協会 | 東洋大学国際観光学部・武ゼミ学生制作「式根島温泉PR動画」](#)

第2部 地域の魅力発信

「私のまちの魅力について」

立教大学観光学部羽生ゼミ



～私たちのゼミ～

私たち立教大学観光学部羽生ゼミでは、観光地や地域の魅力を掘り起こし、誘客の方法を研究しています。これまでに世界自然遺産の価値や課題の分析、新座市のイベント支援などを実施しました。昨年度は（公財）東京観光財団と連携し、小平市のオープンガーデンについて現状の課題を調査し、地域活性化に向けた提言（写真はその時の様子）を行いました。

伝統を越える革新性を常に発信



銀座三越（株式会社三越伊勢丹提供）

銀座三越は1930年に開業した老舗百貨店で、2010年には新館がオープンしました。9階には「銀座テラス」と呼ばれる開放的な空間が整備されていますが、その一角には本館の屋上を利用した緑豊かな「テラスガーデン」があり、芝生広場や季節の草花で彩られています。

にぎやかな売り場とは対照的に、人々が自由に集いくつろげる場となっており、買い物の場であると同時に、都市の中で一息つける「余白」を提供しています。

新しいリズムをもたらす場の誕生



Ginza Sony Park（Ginza Sony Park提供）

2025年1月、旧ソニービルの跡地にGinza Sony Parkが誕生しました。数寄屋橋交差点のすぐそばにありながら、建物の高層化を避け、あえて低層で広く開かれた設計になっています。

テナントを持たず、多目的なスペースとしてアクティビティやイベントが展開されている一方、屋上などには座れる場所が点在し、誰もが立ち寄れる雰囲気となっていて、都市における自由に流動的な「余白」を生み出しています。

第2部 地域の魅力発信

「私のまちの魅力について」

多摩大学経営情報学部ながしまゼミ



～私たちのゼミ～

多摩大学ながしまゼミでは、「プロデュース力をつける」をテーマに掲げ、地域の自治体や企業と連携し、イベントの企画から運営までを担うプロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトは8つに分かれており、学生たちはそれぞれの課題に対して、自身のプロデュース力を高めるために意見を出し合いながら活動しています。

悠久の歴史も感じられる複合文化施設



パルテノン多摩（多摩市文化振興財団提供）

「パルテノン多摩」は、1987年に開館し、今年で38年を迎える複合文化施設です。多摩センター駅から施設までは、パルテノン大通りでまっすぐにつながっており、目の前に現れるのは80段の大階段と、パルテノン神殿を彷彿とさせる大きな柱です。施設内には、大小のコンサートホールだけでなく、ミュージアムや都内でもとても珍しい自動演奏楽器が設置されており、ミニコンサートは月に2回程度開催され、どなたでも演奏を聴くことができます。

リニューアルオープンした公園



多摩中央公園（長島ゼミ学生提供）

多摩中央公園は、2025年4月5日にリニューアルオープンしました。隣接する多摩市立中央図書館は、環境に配慮した施設として「ZEB Ready」認証を取得しています。また、公園内にはみどりと環境活動の拠点となる「多摩市立グリーンライブセンター」もあります。三角屋根の温室があり、ガーデンではバラなどの花々が育てられています。さらに、多摩地域で唯一の自宅で育てている植物について相談できる「花とみどりの相談」窓口があります。